

## 地域安全まちづくり審議会議事録要旨

### 1 日時

平成21年11月9日（月）13:30～15:30

### 2 場所

県庁3号館6階 第1委員会室

### 3 出席者

#### 委員

山下会長、足立委員、井上委員、岩成委員、大沼委員、木谷委員、國松委員、坂本委員、佐藤委員、瀬渡委員、寺崎委員（代理：山村県経営者協会理事）、藤原委員、山田（知）委員（代理：垣尾県市長会参事）、山田（康）委員

#### 県側

中塚政策参事、梅谷県民文化局長、高坂地域安全課長、上田県警察本部生活安全部参事官ほか幹事課室

### 4 主な内容

#### (1) 地域安全まちづくり推進計画の見直しについて

- ・ 半額補助では地域の持ち出しになり、やりたいと思っていることができない。地域が金を集めるのは非常に難しい。
- ・ 少年非行に関する既存の公的機関が有機的に連携できないか。
- ・ 一人暮らしの女性の安全に関する取組の充実を具体的に図る必要がある。
- ・ 警察の世話にならないようにすべきであることを地域で子どもに教える必要がある。推進計画の中に「地域と学校との連携」の項目を入れる必要がある。
- ・ 警察の既存の仕組みや県民交流広場を、もっと活用すべきである。
- ・ 地域だけの活動には限界がある。肩書きを作った警察や行政には、地域が具体的な活動ができるまでケアして欲しい。
- ・ 推進計画に薬物乱用防止の記載を入れるべきだ。
- ・ 子どもが安心してすぎているという話を聞く。幼い子どもの安全は大人が守るのだが、成長段階に応じて、自分で身を守る力をつけていく必要がある。
- ・ 若い女性に対する幅広い安全教室が必要である。
- ・ 「犯罪被害者等を支える地域づくりの推進」は是非進めて欲しい。事業計画に見合った予算が必要である。
- ・ 今後の防犯活動は、住民の参加を得て進めていかざるをえない。自分たちで何とかしたいという住民の気持ちをしっかりと吸い上げて、参加型のものにして、財政

的な基盤を作ってやらないとうまくいかない。

- ・ これまでの地域安全まちづくりは「産めよ増やせよ」であったが、今後は「選択と集中」である。参加型の場合は、金も手間暇もかかる。中途半端にならないよう、メリハリをつける必要がある。
- ・ 地域安全まちづくりの推進にはどのような意味があり、地域で安全・安心を作り上げていくことにはどのような価値があるのか。自助・公助・共助の考え方を含めて、推進計画の冒頭で書き足す必要がある。
- ・ 地域安全まちづくり活動の供給者であり受益者であるということをどう考えていくか。防犯から始まり、防犯以外の様々な地域課題にどう活動を広げていくのか、また、どうすれば他の活動を行っているグループが防犯に関心を持ってもらえるか、ということの理念的・総論的な部分を修正する必要がある。
- ・ 地域の取組に対する助成が減ってきており、どうしてもやりたい活動ができなくなっている。そのような地域の活動を話し合うためのブロック会議の場を設定してもらいたい。その中に警察や県・市の担当も入って欲しい。
- ・ 住民だけの活動では身の危険を感じる。警察力がないと動きにくい場合もあるのではないかな。
- ・ 必要活動費の半分为補助金ではなく地域の持ち出しになっているような現況に関しては、受益者負担という解釈も一部にはないではないが、まずは警察・行政がアイデア・活動費を準備し、それに対して地元住民の協力を求めていくことが必要。
- ・ 定年退職をした男性にもっと活動に参加してもらいたい、少し恥ずかしさがあるようだ。県が「ボランティア活動をしませんか」と広報して欲しい。
- ・ 女性の能力を活用すべきである。
- ・ 犯罪を目測しているところに行き行って聞き取りをするなど、あまり金をかけずに、いろいろな形で防犯活動にフィードバックできることがあるのではないかな。
- ・ 安全意識を高める唯一で最大の方法は、継続的に意識することである。学校のホームルーム等を活用して、継続的に、長いスパンで安全意識の効果が出るように、教育プログラムの中にとり入れることを検討して欲しい。
- ・ 子どもに何かを教育する際に、ついでに大人にも来てもらって、子どもと一緒に大人も何かをするというプログラムで、大人のモラル向上に役立てたい。
- ・ 中山間地域では、面積が広く、人口が減少しており、高齢者の割合が高く、移動手段として車が不可欠である。そのような状況で、どのように防犯に取り組んでいくのか、という都市部とは違った難しさがある。地域によって取組が違ふので、今後の課題として推進計画に反映させる必要がある。
- ・ こちらが参加して欲しい人と考えている人がなかなか参加してくれない。このような人に参加してもらえよう仕組を考える必要がある。
- ・ 親から子、先輩から後輩、地域の年輩から年少に伝えていくことが重要である。
- ・ 元気やエネルギーが出てくる推進計画にする。